

数学 コース 1

(基本コース)

(コース2は 15 ページからです)

「解答コース」記入方法

解答コースには「コース1」と「コース2」がありますので、どちらかのコースを一つだけ選んで解答してください。「コース1」を解答する場合は、右のように、解答用紙の「解答コース」の「コース1」を○で囲み、その下のマーク欄をマークしてください。

＜ 解答用紙記入例 ＞

解答コース Course	
コース 1 Course 1	コース 2 Course 2
●	○

選択したコースを正しくマークしないと、採点されません。

I

問 1 a, b は実数であり, $0 < b < 7$ とする。2 次関数

$$f(x) = x^2 - 6x + a$$

の $b \leq x \leq 7$ の範囲における最大値 M と最小値 m を考える。

$f(x)$ は

$$f(x) = \left(x - \boxed{\text{A}}\right)^2 + a - \boxed{\text{B}}$$

と表される。

(1) 次の文中の $\boxed{\text{C}}$ ~ $\boxed{\text{G}}$ には, 下の ① ~ ⑨の中から適するものを選びなさい。

次の 2 つの場合に分けて, M, m を求める。

(i) $0 < b \leq \boxed{\text{C}}$ のとき

$$M = \boxed{\text{D}}, \quad m = \boxed{\text{E}}$$

である。

(ii) $\boxed{\text{C}} < b < 7$ のとき

$$M = \boxed{\text{F}}, \quad m = \boxed{\text{G}}$$

である。

① 0

② 1

③ 2

④ 3

⑤ $a - 6$

⑥ $a + 7$

⑦ $a + 8$

⑧ $a - 9$

⑨ $b^2 - 6b + a$

⑩ $b^2 + 6b + a$

(2) $M = 13, m = 1$ となるような a, b を求めると

$$a = \boxed{\text{H}}, \quad b = \boxed{\text{I}}$$

である。

- 計算欄 (memo) -

数学-4

問 2 大中小 3 個のさいころを同時に投げて出た目の数をそれぞれ x, y, z とし

$$\begin{aligned} x = y = z & \text{ である事象を } A, \\ x + y + z = 6 & \text{ である事象を } B, \\ x + y = z & \text{ である事象を } C \end{aligned}$$

とする。

(1) 事象 A, B, C の起こる場合の数は、それぞれ

$$A \text{ が } \boxed{J}, \quad B \text{ が } \boxed{KL}, \quad C \text{ が } \boxed{MN}$$

である。

(2) 事象 $A \cap B, B \cap C, C \cap A$ の起こる場合の数は、それぞれ

$$A \cap B \text{ が } \boxed{O}, \quad B \cap C \text{ が } \boxed{P}, \quad C \cap A \text{ が } \boxed{Q}$$

である。

(3) 事象 $B \cup C$ の起こる確率 $P(B \cup C)$ は

$$P(B \cup C) = \frac{\boxed{RS}}{\boxed{TUV}}$$

である。

注) さいころ : dice

- 計算欄 (memo) -

の問題はこれで終わります。 の解答欄 ～ はマークしないでください。

II

問 1 x の式

$$P = |x - 1| + |x - 2| + |x - a|$$

を考える。 P の値が $x = a$ のとき最小となるような実数 a の値の範囲を求めよう。

まず、一般に不等式

$$|x - 1| + |x - 2| + |x - a| \geq |x - 1| + |x - 2|$$

が成り立ち、等号が成り立つのは $x = a$ のときであることに注目する。

このとき

$$y = |x - 1| + |x - 2| \quad \cdots \cdots \quad \text{①}$$

とおくと

$$y = \begin{cases} -\boxed{\text{A}}x + \boxed{\text{B}} & (x < \boxed{\text{C}}) \\ \boxed{\text{D}} & (\boxed{\text{C}} \leq x \leq \boxed{\text{E}}) \\ \boxed{\text{F}}x - \boxed{\text{G}} & (\boxed{\text{E}} < x) \end{cases}$$

である。

① のグラフを考えると、 y の最小値は $\boxed{\text{H}}$ であり、不等式 $\boxed{\text{I}} \leq x \leq \boxed{\text{J}}$ を満たすすべての x において y はこの値 $\boxed{\text{H}}$ をとることが分かる。

よって、 $\boxed{\text{K}} \leq a \leq \boxed{\text{L}}$ を満たすすべての a に対して、 P の値は $x = a$ で最小となる。また、そのときの P の値は $\boxed{\text{M}}$ である。

- 計算欄 (memo) -

数学-8

問 2 自然数 a, b の最大公約数は 3 とする。 a, b の最小公倍数を ℓ とおくと

$$3a - 2b = \ell + 3 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

が成り立つような自然数 a, b を求めよう。

$a = 3p, b = 3q$ とおくと, p, q は互いに素であるから $\ell = \boxed{\text{N}} pq$ である。
したがって, 等式 ① は p, q を用いて

$$pq - \boxed{\text{O}} p + \boxed{\text{P}} q + \boxed{\text{Q}} = 0$$

と表される。これを変形して

$$(p + \boxed{\text{R}})(q - \boxed{\text{S}}) = -\boxed{\text{T}}$$

を得る。この等式を満たす整数 p, q の組の中で a, b の両方が自然数となるのは

$$p = \boxed{\text{U}}, \quad q = \boxed{\text{V}}$$

のときであり

$$a = \boxed{\text{WX}}, \quad b = \boxed{\text{Y}}$$

である。

注) 最大公約数 : greatest common divisor, 最小公倍数 : least common multiple,
互いに素 : mutually prime (co-prime)

- 計算欄 (memo) -

Ⅱ の問題はこれで終わります。Ⅱ の解答欄 **Z** はマークしないでください。

III

次の文中の **A** ～ **M** には、下の ① ～ ⑨ の中から適するものを選びなさい。

次の連立不等式を解いてみよう。ただし、 $0 < a < 1$ とする。

$$\begin{cases} x^2 - 2x < 3 & \dots\dots\dots ① \\ ax^2 - ax - x + 1 > 0 & \dots\dots\dots ② \end{cases}$$

不等式 ① を解くと

$$\mathbf{A} < x < \mathbf{B}$$

である。

次に、不等式 ② を変形して

$$(ax - \mathbf{C})(x - \mathbf{D}) > 0$$

を得る。よって、 $0 < a < 1$ に注意すると、② の解は

$$x < \mathbf{E} \quad \text{または} \quad \mathbf{F} < x$$

である。

したがって、求める連立不等式の解は

$$0 < a \leq \mathbf{G} \quad \text{のとき,} \quad \mathbf{H} < x < \mathbf{I}$$

$$\mathbf{G} < a < 1 \quad \text{のとき,} \quad \mathbf{J} < x < \mathbf{K} \quad \text{または} \quad \mathbf{L} < x < \mathbf{M}$$

である。ただし、 $\mathbf{K} < \mathbf{M}$ とする。

- | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ① 0 | ② 1 | ③ 2 | ④ 3 | ⑤ -1 |
| ⑥ $\frac{1}{2}$ | ⑦ $\frac{1}{3}$ | ⑧ $\frac{1}{a}$ | ⑨ $\frac{2}{a}$ | ⑩ $\frac{3}{a}$ |

- 計算欄 (memo) -

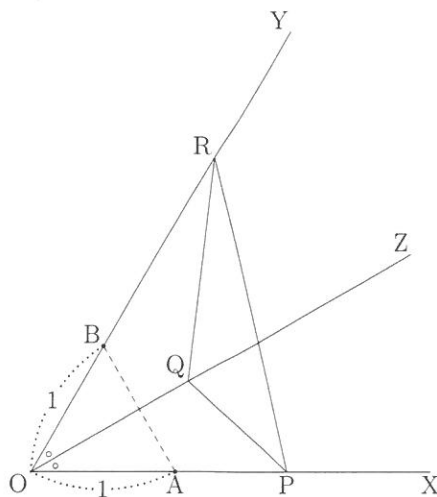
III の問題はこれで終わります。III の解答欄 **N** ～ **Z** はマークしないでください。

IV

右図において、 $\angle XOY = 60^\circ$ であり、 OZ は $\angle XOY$ を 2 等分する半直線とする。また、半直線 OX, OY 上の点 A, B は $OA = OB = 1$ を満たす。

いま、 OX, OZ, OY 上の動点 P, Q, R は、それぞれ A, O, B から同時に出発して、毎秒 $1, \sqrt{3}, 2$ の速さで点 O から遠ざかるとする。

このとき、3 点 P, Q, R が一直線上に並ぶまでの時間を、三角形 PQR の面積を考えることによって求めよう。



まず、出発から t 秒後の OP, OQ, OR の長さはそれぞれ

$$OP = t + \boxed{A}, \quad OQ = \sqrt{\boxed{B}} t, \quad OR = \boxed{C} t + \boxed{D}$$

と表される。このとき、三角形の面積はそれぞれ

$$\triangle OPQ = \frac{\sqrt{\boxed{E}} t (t + \boxed{F})}{4}$$

$$\triangle ORQ = \frac{\sqrt{\boxed{G}} t (\boxed{H} t + \boxed{I})}{4}$$

$$\triangle OPR = \frac{\sqrt{\boxed{J}} (t + \boxed{K}) (\boxed{L} t + \boxed{M})}{4}$$

である。よって

$$\triangle PQR = \frac{\sqrt{\boxed{N}}}{4} \left| -t^2 + t + \boxed{O} \right|$$

である。したがって、3 点 P, Q, R が一直線上に並ぶのは

$$t^2 - t - \boxed{O} = \boxed{P}$$

が成り立つときと考えればよい。よって、求める時間は

$$t = \frac{\boxed{Q} + \sqrt{\boxed{R}}}{\boxed{S}} \text{ (秒)}$$

である。

- 計算欄 (memo) -

IV の問題はこれで終わりです。**IV** の解答欄 **T** ～ **Z** はマークしないでください。

コース 1 の問題はこれですべて終わりです。解答用紙の **V** はマークしないでください。

解答用紙の解答コース欄に「コース 1」が正しくマークしてあるか、
もう一度確かめてください。

この問題冊子を持ち帰ることはできません。

〈数 学〉 Mathematics

コース 1 Course 1			
問 Q.		解答番号 row	正解 A.
I	問 1	AB	39
		C	3
		D	5
		E	7
		F	5
		G	8
		H	6
		I	5
	問 2	J	6
		KL	10
		MN	15
		O	1
		P	2
		Q	0
		RSTUV	23216
II	問 1	ABC	231
		DE	12
		FG	23
		H	1
		IJ	12
		KL	12
		M	1
	問 2	N	3
		OPQ	321
		RST	237
		U	5
		V	2
		WX	15
		Y	6
III		AB	43
		CD	11
		EF	17
		G	6
		HI	41
		JK	41
		LM	73
IV		A	1
		B	3
		CD	21
		EF	31
		GHI	321
		JKLM	3121
		NO	31
		P	0
		QRS	152

コース 2 Course 2			
問 Q.		解答番号 row	正解 A.
I	問 1	AB	39
		C	3
		D	5
		E	7
		F	5
		G	8
		H	6
		I	5
	問 2	J	6
		KL	10
		MN	15
		O	1
		P	2
		Q	0
		RSTUV	23216
II	問 1	ABC	962
		DE	13
		F	1
		GH	22
		I	3
		JKL	932
	問 2	MN	44
		OP	32
		QRSTU	14357
		V	4
		W	3
		XY	58
III		ABCD	4624
		EFGHI	34124
		JKLMN	34124
		O	1
		PQ	-2
		R	1
		S	0
		T	0
		U	4
		V	9
IV		AB	41
		C	4
		DEF	642
		G	4
		HI	14
		JK	74
		L	8
		MN	24